ドイツ語の歴史的変遷

関連するSDGsの国際目標



人間文化学部　国際コミュニケーション学科
准教授　　吉村　淳一
研究分野：ドイツ語学、ドイツ文化

概要：古い時代の言語（例えば中世のドイツ語）から現代ドイツ語までを分析の対象としています。一つの言語形式が環境（統語的・語彙的な環境や文脈など）に応じて、どのように意味を獲得するのかを解明することを研究テーマとしています。

■言語使用の歴史的変遷

言語は社会の変化に応じて変化していきます。歴史的な視点から、ドイツ語がどのようなプロセスを経て変化してきたのかに焦点を当てて研究をしています。特に中世ドイツ語の叙事詩『ニーベルンゲンの歌』や『クードルーン』などに見られる2格（英語の所有格に相当）の用例を収集し、語形や統語構造と韻律の関係について研究しています。

■多義性についての研究

言語は多義性をもち、使用される環境によって意味が決定されます。一義的になることもあれば、多義性を保持し受信者の解釈に判断を委ねることもあります。ドイツ語の形容詞の事例を取り上げて、そのメカニズムについて研究しています。その際、言語コーパス等を使用し分析を行っています。

■ドイツ語圏の文化と言語

異文化理解の手がかりをつかむために、言語が使用される環境の一つである文化についての知識や情報も幅広く収集し、ドイツ語教育に活用できるようにしています。